

会議議事摘録

会議名	平成 27 年度第 1 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 27 年 6 月 28 日（日曜日）14：00～16：45（2.75h）
場所	本校 3 階 302 教室
出席者 (敬称略)	①委員：岩間みどり(保護者)、佐藤文雄(高等学校関係者)、野間 弘(卒業生)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、宮武正秀(福祉関連業界関係者)（計 6 名） ②学校：橋本正樹(校長)、藤野 裕(参与)、宮下明久(事務局長)、前田律子（看護科担当副校長兼学科長）、石川幹夫(医療秘書科学科長)、黒田潔(医療マネジメント科学科長)、菊池聖一(診療情報管理専攻科学科長)、中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子(介護福祉科学科長)、檀 貴与(鍼灸医療科学科長)（計 10 名） ③事務局：出野孝行・高橋 稔(校長室)（計 2 名） （参加者合計 18 名）
欠席者	なし
配付資料	①事前送付： □資料 1：平成 26 年度第 3 回学校関係者評価委員会議事録案、□資料 2：平成 26 年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組・改善の進め方、□資料 3：平成 26 年度活動の自己評価報告書（点検大項目まとめ）、□資料 4：平成 27 年度の重点目標と達成するための計画・方法 ②本日配付： □資料 5：平成 27 年度委員名簿、□資料 6：平成 26 年度第 3 回委員会以降の主な経過報告（別添 A：平成 27 年度校務分掌、B：平成 27 年度学事日程、C：平成 27 年度オープンキャンパス日程、D：平成 27 年度クラス担任一覧、E：平成 26 年度退学状況報告、F：平成 27 年度前期授業アンケート実施計画、G：平成 27 年度授業公開の進め方、H：平成 26 年度就職内定状況報告、I：平成 27 年度教員研修計画、J：第三者評価報告書 ③本日配付印刷物： □平成 28 年度入学案内書、□平成 28 年度募集要項、□平成 27 年度学生生活ガイド、□平成 27 年度講義要項 ④回覧資料：□平成 26 年度第三者評価修了証
議題等	1. 今年度の委員及び本校出席者紹介（説明者：事務局出野） 事務局より、資料 5 に基づき平成 27 年度の委員紹介が行われた。保護者委員として新たに岩間委員が就任されたことが報告された。 併せて、本校出席者の紹介が行われた。平成 27 年 4 月の異動により前田看護科担当副校長兼学科長、黒田医療マネジメント科学科長、岩上介護福祉科学科長の新任が報告された。 2. 校長挨拶 橋本校長より、河北医療財団から看護師教育を継承して 4 月に看護科を開設したこと、

私立専門学校等評価研究機構による５年ごとの第三者評価の更新を３月末に完了したこと、また、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関である職業大学の創設に向け審議が中央教育審議会において始まり、早ければ平成 31 年度から一定の教育水準を満たす専門学校も加わる道筋が可能性として示されたこと、更に、看護科の開設を契機に医療と福祉の専門学校として学科間の連携を強化して他校との差別化を図り、既存学科の再編や教育対象の拡大も視野に入れつつ 18 歳人口の急減期に対応する準備をしていくこと、そして、教育の質保証の観点から教育の可視化と情報公開を行い、本校の 2-40 プロジェクトにも示した、選ばれる学校、プレステージスクールを目指すこと、そのことから、今年度は職業実践専門課程の新たな申請も視野に入れて本委員会を拡大していく予定であり、委員の皆様には引き続き本校のサポーターとして貴重なご意見を賜りたいとの挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認

保坂委員長より、前回議事録（資料 1）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。

4. 経過報告（説明者：事務局出野）

平成 26 年度第 3 回委員会以降の主な経過について、資料 6 に基づき説明が行われ、確認、了承された。

なお、委員より以下について質問と意見があり、それぞれ担当より説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①看護科と他学科の学事日程等の違いについて
- ②今年度発足のプロジェクトについて
- ③メンタルヘルスへの対応について

5. 平成 26 年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組・改善の進め方について（説明者：事務局高橋）

平成 26 年度活動の自己点検・自己評価に併せて確認した内容について、資料 2 に基づき説明が行われ、確認、了承された。

なお、委員より以下について質問と意見があり、それぞれ担当より説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①豊島区オープンスクールについて
- ②退学防止について
- ③転科の現状について
- ④授業公開について

6. 平成 26 年度活動の自己評価報告書（点検大項目まとめ）について

保坂委員長より、資料 3 について、各評価項目の順に確認するとの説明があり、評価項目毎に質疑応答が行われた。詳細は別紙のとおり。

(1) 基準項目別取組状況（説明者：事務局高橋）

今回の報告書は点検基準や報告書の体裁等に変更がないため、前年度の報告書に訂正、追加等をアンダーラインで追記する形でまとめてあるとの説明の後、基準1～10の評価項目毎に追記部分の記述について説明が行われた。

なお、委員より以下について質問と意見があり、それぞれ担当より説明が行われた。

- ①情報システムについて
- ②学生の外部表彰の対外的なアピールについて
- ③コマシラバスの作成に向けた考え方について
- ④保健室の運営と関係者の連携について
- ⑤卒業生への相談体制について
- ⑥学校内のWi-Fi設備対応について
- ⑦施設・設備のバリアフリー化対応について
- ⑧退学率に関する情報提供について
- ⑨共通基礎学力テストについて

(2) 学校関係者評価報告書の整理とまとめ

保坂委員長より、以上をもって平成26年度活動の自己評価報告書の質疑を終了し、本日の質疑をもとに本委員会の平成27年度学校関係者評価報告書のまとめを行うこと、また、報告書案は今回の議事録と共に事前に各委員に送付した上で、次回委員会において審議、検討することについて説明があり、確認、了承された。

7. 平成27年度の重点目標と達成するための計画・方法について

橋本校長より資料4に基づき、今年度の重点目標も昨年度に引き続き、①TPCの育成と強化、②退学防止：年間退学率3.5%以下、③教員研修：授業公開の工夫とインストラクションスキルの向上としたことについて、それぞれ説明が行われ、確認、了承された。

なお、委員より以下について質問・意見があり、説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①退学防止について
- ②教員研修について
- ③入学前の課題について

8. 次回日程、その他（説明者：事務局出野）

第2回委員会は10月～11月に開催を予定しており、9月に日程調整を行った上で案内をすること、次回テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ・平成26年度委員会報告に示された課題への取り組み進捗報告
- ・平成27年度重点目標の中間点検報告
- ・平成27年度の学校関係者評価報告のまとめ

最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼が行われ、閉会した。

以上

別紙

平成 27 年度第 1 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

4. 経過報告について

○事務局出野より、資料 6（別添 A～J）に基づき平成 26 年度第 3 回委員会以降の経過について以下の報告が行われた。

(1) 平成 27 年度の組織運営関連

- ・主な人事異動　・平成 27 年度校務分掌（別添 A）　・平成 27 年度学事日程（別添 B）
- ・平成 27 年オープンキャンパス日程（別添 C）　・平成 27 年度クラス担任一覧（別添 D）

(2) 自己点検・自己評価関連

- ・平成 26 年度活動の自己点検・自己評価実施（資料 2、3）

(3) 学生の状況関連

①退学の状況

- ・平成 27 年 3 月末での退学者は 33 名、退学率は 4.5%（平成 25 年度は 3.4%）（別添 E）

②就職内定の状況

- ・平成 27 年 3 月末時点での内定者数は 271 名、内定率は 98.9%（平成 25 年度は内定者数 244 名、内定率 98.4%）（別添 H）

(4) 平成 27 年度前期授業アンケート実施計画（別添 F）

- ・実施学科：看護科を除く学科
- ・実施科目：前期開講の全科目
- ・実施時期：平成 27 年 6 月 22 日（月）～ 6 月 26 日（金）※介護福祉科 1 年生は 6 月 29 日（月）～ 7 月 3 日（金）
- ・調査項目：平成 26 年度改訂アンケート用紙参照

(5) 平成 27 年度授業公開実施計画（別添 G）

- ・今年度の重点目標（資料 4）に基づく教員のインストラクションスキル研修として学科単位で実施
- ・実施期間は 6 月以降、試験期間を除く前期、後期の授業期間中の各学科が指定する 1 週間
- ・他学科教員、事務職員は公開者に事前に申し出て参観、参観レポートは公開者と学科長に提出

(6) 平成 27 年度教員研修実施計画（別添 I）

- ・専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するために実施する研修
- ・授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するために実施する研修

(7) 看護科開設

- ・平成 27 年 4 月新設（定員 35 名）、新入生：35 名（男子 7 名、女子 28 名）、在学生：2 年生 38 名（男子 6 名、女子 32 名）、3 年生 35 名（男子 4 名、女子 31 名）
- ・4／8　オリエンテーション　4／9　入学式　5／16　載帽式

(8) 第三者評価関連

- ・4／2　私立専門学校等評価研究機構より、第三者評価修了通知及び修了証と第三者評価報告書を受領、これにより平成 26 年度第三者評価を更新、有効期間は平成 30 年 3 月末まで（別添 J）

○委員からの質問と回答は次のとおり。

(1) 看護科と他学科の学事日程等の違いについて

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□新設された看護科は、学事日程をはじめ様々なものが今は他学科とは別に動いているようだが、将来的にはどのようなになるのか。	□運営にかかわる規定、細則等はできるだけ整合を図っているが、これまでの学校運営の流れもあり、本校の従来の流れとの相違点は1年間かけて埋めていく予定。ただ、看護科の場合、特に実習が多いことから、医療事務系学科とは年間の授業計画と授業運営等も異なってくると思う。厚労省系の介護福祉科と鍼灸医療科とは年間スケジュールをできるだけ揃え、医療事務系学科と二本立てという形で来年度以降統合していく形を考えている。 □看護科はオープンキャンパス、入試日程、入試形態も異なっている。入試は筆記試験と面接試験を中心に、社会人をはじめ推薦も公募制も入れながら行っており、できるだけ質のよい学生を確保するために倍率を上げることを考えている。昨年度は3.5倍でこれを継続していきたい。教育課程では、厚労省の指定規則に沿って30時間1単位、実習は45時間1単位、3年間で97単位、3,015時間と過密になっているが、できるだけ、他学科の学生と交流しながら、それぞれの医療部門で活躍していく学生たちと情報交換する中で学習が進められれば良いと思っている。これからの年間計画の中でできるだけ交流を図って、全体で学んでいきたいと思っている。

(2) 今年度発足のプロジェクトについて

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□4月から始まった学科再編検討プロジェクトは、行政や業界の動向をにらんで学科の改廃の検討があると思うが、その中で医事系教育高度化検討会は医療福祉に特化したのではなく様々な可能性を探るものと考えてよいのか。	□医療事務系学科が職業実践専門課程に認定されており、教育課程編成委員会の提案から医療事務の仕事の高度化に適応するような教育内容に変えるための検討会を設置した。もう一つは学科再編であり、平成30年度以降、18歳人口が減る中で、教育対象の拡大を考えている。また、定員充足が医療事務系学科と看護科だけであり、それ以外の学科の将来性をどうするかを、中期計画的な視野で今年度中に方向性について結論を出す予定である。

(3) メンタルヘルスへの対応について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
☐ 教員の研修計画の中で、学生対応のためのメンタルヘルスの理解とあるが、一般的には職員、社員向けのメンタルヘルスカが義務化の方向に動いているが、本校ではどうなのか。また、退学理由にメンタル的なことで退学に至ってしまった学生がいないのか、そうしたケースが出たときに具体的にどのような対応を考えているのか。	☐ 職員については、法人本部に衛生委員会があり、学内の教職員も構成委員になっている。産業医も参加して、教職員の勤務状況などに関してのチェックは毎月行っている。 ☐ 退学については、精神的な原因は多くはない。学生相談コーナーでの相談事例はあるが、比率としては高くはないと思っている。昨年度の退学の目標数値はオーバーしたが、防ぎきれない退学や除籍者も含む数字であり、できるところではある程度防げてはいる。ただ、今回、保健室の担当者不在という中で学内の連携について改めて見直す予定であり、担任と兼任講師の先生方との連携で兆候を早く見つけ、できるだけ早く対応することを推進していきたいと思っている。

5. 平成 26 年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組・改善の進め方について

○保坂委員長より、資料 2 は事前配付しており、また資料中の※ 1 の部分は、前回委員会において報告を受けているので、※ 2 の「現状（5 月末時点）」と「今後の進め方」について質疑応答を行い、次回委員会で中間点検報告が行われるとの説明があった。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

(1) 豊島区オープンスクールについて

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
☐ 豊島区のオープンスクールについて、参加者が少ないが、他校の状況はどうなのか。 ☐ 止めるという選択はないのか。	☐ 豊島区の専修学校各種学校協会総会で前年度の報告があったが、どの学校も参加者数を減らしている。今年度の開講状況も前年度に比べると低調である。区報やパンフレットを区の出先機関に置いて告知してはいるが手にとってもらえる機会が減っている。区とのタイアップについての対策案を協会から提案していこうという状況である。 ☐ コスト面では、全て内部の先生方で実施する内容なので、準備の負担だけである。地域貢献の意味合いが大きいので、工夫をして少しでも多く参加してもらえるように見直しをして今年度も 3 講座を開講予定でいる。

(2) 退学防止について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
☐ 退学防止は重点目標に掲げて、教職員の皆さんが大変努力されている。26 年度に若干増えた	☐ 入学生の目的意識が低いケースは見受けられる。本校ではオープンキャンパスに複数回参加す

理由として、資料では不適応や進路変更の割合が大きい、これは入学生目的意識の低さなどが大きな原因となっているのか。	ることを通して、学校をよく知った上で入学してもらうことを勧めている。ただ本人ではなくて高校の先生や親に勧められて入学したが、自分には向かない、ほかの分野のことを改めてやりたいという学生は一定数いる。そのため、なるべく早い時期にまず成功体験を持たせる意味で、医療事務系学科では3級レベルの検定試験を6月に受け、合格して自信を得てモチベーションを高めてもらう方法をとっており、それが成功している部分はあるが、逆に検定試験に合格したから辞めるというケースもある。入学前の対応がとても大切でオープンキャンパスも1回目と2回目それぞれ異なった内容で行い、モチベーションを高め、より学校を知ってもらうような仕掛けを考えていく必要がある。そのためにもオープンキャンパス参加が何回目といったことが分かるような学事システムでのデータの一元管理や、入口から出口までの仕組みの中で個別対応をすることで、教育の精度を高める工夫を学校全体として考えていきたいと思っている。
--	---

(3) 転科の現状について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□看護学科以外の学科の転科の現状を知りたい。	□本校は5月1日に在籍確定をしており、連休に入るまでは転科が可能。入学して自分には向かないと相談があった場合には、他学科に移ることを勧めていて例年数名の実績がある。今年はいくすり・調剤事務科から医療秘書科へ1名転科した。

(4) 授業公開について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□授業公開の定着度、実施率を知りたい。また授業公開をした効果、参観して自分の授業に参考になったという意見は多いのか。	□昨年度までは、常勤教員が自分の授業を一つ公開することで実施した。学科の中でお互いが参観でき、学科外の方も興味があれば申し込みをして参観する形で実施した。昨年度の実施報告書を委員会に報告しているが、参観者は自分の授業に参考になった点をレポートしている。公開者も感想、意見をいただいて参考になったというレポートが多い。
□今年度は期間も長く、より参加しやすい形にしているということで、効果を今後期待したい。兼任の先生も参加するような道はあるのか。	□今年度は1週間と期間を決めてその期間の授業を公開、参観する形態とした。時間割等の関係で参加できない現状が改善できなかったが、今ま

	でよりは参加しやすい環境になるので、参観者数も増えると思う。 現在は常勤教員の研修で実施している。仮に兼任の先生の授業参観となると、それは学科長が学科管理の観点でお願いするなど、この仕組みとは別検討になると思う。一緒にできるか即答はできない。
--	---

6. 平成 26 年度活動の自己評価報告書（点検大項目まとめ）について

○保坂委員長より、学校関係者評価の一番の仕事は、学校が自己点検・自己評価したものを、委員の皆さんそれぞれの立場で、違う角度から評価をいただくものであり、平成 26 年度活動の自己評価報告書（資料 3）について、項目毎に委員の皆さんからのご意見をいただきたいとの説明があった。

○事務局高橋より、資料 3 に基づき平成 26 年度活動の自己評価報告書（点検大項目まとめ）について以下の説明、及び項目毎に追記、訂正した部分の要点説明が行われた。

- ・点検基準、記入様式は昨年度と同じであり、改正、訂正、追加があったところを追記する形で報告書をまとめ、追記、訂正した部分にはアンダーラインを引いてある。
- ・自己点検・自己評価そのものは、点検中・小項目は全部で 280 項目ぐらいあり、それぞれ担当する部署、学科、委員会がそれぞれに担当部分の自己点検・自己評価を行っている。それを整理した 250 ページ程の資料（平成 26 年度活動の自己点検・自己評価報告書：点検中・小項目）を基に点検大項目部分をまとめたものが資料 3 であり、この資料を学外公表している。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 基準 2：情報システムについて

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□平成 26 年度に新システムの導入に向け検討を始めて、平成 27 年度中に入れ替えるということか。	□全部署一斉に入れ替えができるかどうか、学生情報を載せることが同時期にできるかどうか、予算面を含めて検討を進めているが、教務関係と学生募集関係については、今年度中に入れ替わる予定である。
□情報システム化に取り組むと心配になるのが個人情報の漏えいだが、防止のためにシステム作りの中で具体的にどのような取り組みがあるのか。	□成績情報も全て一元化することを目標としているので、閲覧権限と入力権限をコントロールする。もう 1 つは教職員研修の強化。情報漏えいが起こらないように個人情報の取り扱いについての研修を同時期に進めることとしている。

(2) 基準 3：学生の外部表彰の対外的なアピールについて

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□くすり・調剤事務科の学生が優秀賞、医療マネジメント科と診療情報管理専攻科の学生が日野原重明賞を受賞とあるが、これらを入学案内ツールやホームページ上で対外的にアピールしているか。	□毎年 3 月、日本チェーンドラッグストア協会のドラッグストアショーというイベントが幕張メッセで開催されており、それに合わせて、登録販売者、薬剤師、学生に対してセルフメディケーションアワードを募集している。くすり・調剤事務

	科では昨年度から1年生が授業の一環として応募している。昨年今年と1名が受賞したが、応募者の多い学校では5名の受賞というケースもある。学生の目標意識が高まるので、今後も続ける予定である。 □日本医療秘書学会で医療マネジメント科の学生が2年次に発表している。日野原賞受賞は今回で2回目になる。今回は2グループが発表を行ったが、内容が相互補完的なものだったので、両グループがいただいたと思っている。年よっては専攻科生が発表したときもある。
□結果を宣伝材料として活用しているか。日野原賞はどこの学校でも受賞できるわけでもない、他校との差別化という面に出したほうが良いのではないかな。	□日野原賞については、ホームページのブログで学生が発表して賞をいただいたことは出しているが、もっと積極的に活用したい。これからオープンキャンパスの案内DMで出していければと思う。 □日本医療秘書学会はスタートして11～12年になる。以前は医療秘書教育全国協議会所属の専門学校や短大の学生が発表するという傾向だったが、現在は病院勤務の実務家の方々も参加するようになり、研究発表も学生と実務家と半々ぐらいになっている。その中で学生が受賞することはかなりアピールになるのではないかなと思う。逆に、実務家が受賞するとすぐ病院のホームページに「日野原賞受賞」と出ている。もう少し積極的に出しても良いと思う。

(3) 基準3：コマシラバス作成に向けた考え方について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□学生はシラバスを新年度始めに見るが、授業が始まるとほとんどの学生が頭に残ってないと思う。コマシラバス作ったとして学生のためになるのか、また将来的に作る方向にならざるを得ないのかを教えてもらいたい。	□現在は点検項目の基準の中にコマシラバス作成の有無がチェック項目にある。ただ、どう取り組むかは各学校によって異なり、授業公開の中で何か上手くできないかを考えている段階である。 □専門学校は分野によって考え方が異なり、工業系では授業を定型化して、どの先生でも大体同じ内容とし、目標レベルも分かっている授業については積極的にコマシラバス作るという方向である。本校は教科によっては、必ずしもコマシラバスを作ることが教育の中身を良くすることにつながらないこともあるので、科目の特性に応じて考えている。

☐ コマシラバスは、都立高校は 10 年くらい前から週案の提出が義務付けられている。ただし教職員には非常に不評で、実際に管理職として見てもその効果には疑問があった。授業内容の把握という点は良いが、授業改善に役立つように作らないと、形骸化して教員にとっても学生にとってもメリットがないことになってしまう気がする。どうしても作らなければならないのであれば、そのあたりをよく工夫することが必要と思う。	☐ ご意見として承った。
--	-------------------------------------

(4) 基準 5：保健室の運営と関係者の連携について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
☐ 今年は保健室に看護師が不在と聞いたが、心配はないのか。	☐ 具合が悪い学生は学務課の窓口に来てもらう形になっている。心配な状況のときには学務課の職員が一緒についているが、そうでない場合は間をおいて見に行くというような形で対応している。 ただし、心配はしている。運営面での心配、学務課及び事務局の業務面での実態について実証データを積み上げて、不在への問題提起ができるように準備はしている。
☐ 保健室は身体的なことだけでなく、メンタルなことでも利用があると思う。登校しても教室に入れなくて、保健室で休んで落ち着いてから授業に出たという学生が卒業後に、保健室の先生に話を聞いてもらって心が軽くなった、卒業できたのも先生のお陰という例もあると聞いている。退避先として重要な場所だと思うので、常勤の方に来ていただくのが良いと思う。	☐ そういった効果がなかなか目に見えない部分で、一つのセーフティネットであると思っている。そこが欠けてしまった状態なので、そのことで退学に結びつく可能性もあることから、今年度の状況を検証して、次年度にまた人を配置できるよう、実証データを積み上げていきたいと思っている。
☐ 平成 26 年度の報告書には保健室の活動が書いてあるので、不在になってからの状況については、平成 27 年度の報告書においてきちんと自己点検をして欲しい。	☐ ご意見として承った。

(5) 基準 5：卒業生への相談体制について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
☐ 卒業させたら終わりということではなく、重要な部分だと思うので、ぜひ前向きに取り組んでほしい。	☐ 卒業生に向けた相談体制が十分に整っていない現状があるが、それが今後は本校の売りの部分になると思う。卒業生が相談に来て、就職活動をフォローしてもらえそうな体制ができているところに安心して学生も入学して来ると思うの

	で、整えて行きたいと思っている。 □くすり・調剤事務科は2年おきに同窓会を開催しているが、なかなか参加してくれないのが現状で、終了後は欠席者に同総会の様子や次回の案内などを書いたはがきを出してフォローをしている。卒業生のいる店舗に手土産を持って訪問したりもして、卒業生支援の目的を持って行っている。
--	---

(6) 基準6：学校内のW i - F i 設備対応について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□授業で見せたい映像や、動画などがある場合、W i - F i が入っていると映写することができるが、学校内のW i - F i の設備は、検討しているのか。 □検討をお願いしたい。	□現在のところは検討していない。 □ご意見として承った。

(7) 基準6：施設・設備のバリアフリー化対応について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□バリアフリー化は、小・中学校が対象の文部科学省「学校施設バリアフリー化推進指針」を本校に当てはめてみると、車いす対応のトイレが地下にあり、裏側はスロープになっているので、一応必要最小限のバリアフリー化はされていると思う。 できなかったを毎年記述していると本当に考えているのかと思われるので、必要に応じてやれる範囲のバリアフリー化を目標に掲げるほうが良いのではないと思う。	□バリアフリー化への取り組みが基準のチェック項目にあるので、点検項目から外すことはできないが、点検大項目の中に記述するかどうかは、ご指摘の通りと思う。

(8) 基準7：退学率に関する情報提供について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□高校側の専門学校に対する要望の1番目は就職関係で、2番目が退学率の公開と言われているが、もし本校が他校に比べて退学率が低いということであれば、アピールできるのではないと思うが、4%前後というのはどうなのか。	□本校の退学率は、昨年度4.5%という結果で、どちらかといえば低い方だと判断している。専門学校全体では8%位が平均と思うが、先般の第三者評価の訪問調査では委員の方から非常に良い数字という評価をいただいている。職業実践専門課程においては各校の情報公開の中で退学率を明示しているが、他校と比べて自慢できるかどうかは何とも言えない。
□高校側から見ると、これまでは十分に情報公開されていないために専門学校の実態が把握できにくいという状況があった。就職率は勿論、	□募集に関しては、毎年代理店別に資料請求数とそこからの出願数を確認して、予算配分を変えることを毎年行って、努力している。

退学者数についても関心は非常に高い。専門学校の学生募集では一般的に仲介業者が入っていることもあって、予算に占める学生募集活動の費用が高校に比べると高いと思うが、報告には媒体効果の判断基準となるデータを作成するとあるので、それを実施して、浮いた分を実際の教育活動の充実に充てていただきたいと思う。	
□退学率の低さについては、さらに分析してPRができるならば、していただければ良いと思う。	□退学率はネガティブ情報なので、一度出してしまおうと、上がったときにどう対処するかが難しい問題となるので積極的には開示しづらい。職業実践専門課程の認定学科については、公表が義務付けられており、実際にホームページに掲載しているので、そういったところで比較、検討はされていく。

(9) 基準 7：共通基礎学力テストについて

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□共通基礎学力テストを毎年実施しているが、このデータをどう生かしていくのか、資格取得率に関連付けるような、そういう活用をしているのか。	□参考資料としてではあるが、学科において検定指導との関連付けで活用している。医療秘書科や医療マネジメント科では検定指導に結び付けて見ている。
□結果をクラス分けなどに反映するようなことはあるのか。	□入学後に実施しているので、そういうことはない。 □看護科は、社会人経験のある学生と高校からの現役生が半々で、今回初めてこの共通基礎学力テストを実施したが、点数で見ると見事に社会人が上で現役生が下になった。現在、1年生から国家試験に向けての学力指導を行っており、毎時間の振り返りノートを出させて学習指導に役立てているが、現役生に集中的に時間をあてて、毎回ノートを出してもらって確認することをしている。どこにターゲットを当てて指導したら良いかというところで、基礎学力テストを参考にしながら、学習と指導方法を考えたいと思っている。

7. 平成 27 年度の重点目標と達成するための計画・方法について

○橋本校長より以下の説明が行われた。

- ・事業計画では、平成 30 年度以降の学生急減期、18 歳人口急減期に向けて、学校を再編していくというテーマがあり、また、緊急を要するところでは医療事務系の教育内容の高度化に向けた検討をプロジェクトで進めているが、教育活動に関しては、昨年度掲げた 3 つの重点目標を継続する。
- ・最初に T P C の育成と強化。考える力、積極性、対話力の 3 要素をさまざまな面で強化していくが、

今年度は、ここ数年の具体的な取り組みや指導事例の可視化を特に推進していこうと思っている。校長室を中心に、各学科の学科運営計画にある具体例を取りまとめて、共有の財産として参考にすることを推進する。

- ・また、昨年はT P Cの中で特に対話力を捉えて教育研究誌にも書いたが、今年は考える力を自分自身のテーマにして、教職員に提案していきたいと思っている。
- ・退学防止については、昨年度目標を達成できなかったことから3.5%を改めて目標とする。
- ・本校は、看護科以外の学科は実質的に入試での選考をしていない中で、ボタンの掛け違いで入学した学生も、2年間学習を継続させ、就職までもっていくことができているケースは多いと思う。それは全体の協力体制が機能していたからと判断できるが、今年度はセーフティネットの一つである保健室の常駐者がいないこともあって、一層の連携を図らなければならない。実際に看護師の対応で退学を防げたケースもあるので、そういった実情について情報を整理して、次年度以降また常駐者を置けるように考えていきたいと思っている。そういった意味で厳しいところはあるが、引き続き3.5%という目標を継続する。
- ・教員研修については、授業公開において昨年より参加しやすい仕組みで、早い時期での運営になっている。既に、幾つかの学科で来月公開を実施することになっており、さらに前進をさせていくことを考えている。
- ・今、新しい学校種の問題では専門学校が二分化され、第三者評価などに耐え得る学校が新しい学校種につながっていくと思われるが、本校は基本的にはその線を求めていくということで、引き続きこの3点について、教育の質の向上と精度を高めていきたいと思っている。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 退学防止について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□退学防止では、入学後のことが中心になっているが、入学前の対策も掲げてはどうか。	□オープンキャンパスの複数回来校を上手に使用して、入学後にボタンのかけ違いのないような案内や方法論を考えていく必要があると思う。入学時に誤解があるとそれが最終的に退学につながってしまうこともあり、それを極力少なくする意味でこれからの課題として考えていかなければならないと思う。
□これは参考だが、ある大学は離脱者ゼロ計画を打ち出して動いている。ほかの専門学校も、中退者ゼロを目指すところもあるが、どの位の目標値を最高と考えているのか。	□仮にゼロを目標に掲げると、何が何でもやめるな、やめさせるなということになるが、先ほど説明したように、選考なしで様々な学生が様々なケースで入学している現状では、現実的ではない。 高い目標値は3%と考えている。実際にはやむを得ないと判断するものだけで3%近くになるので、現実的に目標とする数字としては、防げる退学を極力防ぐということで、3.5%を目標にしている。

(2) 教員研修について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
-------------------	-----------

□平成 27 年度の計画では、主催団体が用意しているプログラムに担当者や希望者が参加するという形が多いが、できれば、教員自らが独自のアンテナやオリジナルのつながりなどから、役立ちそうな研修を積極的に申し出て、それを認めるような仕組みや、それを奨励することで意識を高めるのも良いのではないと思う。 それと、特に教授法、教え方、パフォーマンスに関するものはどの学科の先生であれ、共通部分があると思うが、専門領域にかかわらない部分で全教職員が参加する外部講師を招いた研修なども計画に入れたら良いのではないと思う。	□研修については、授業コマ数が多いことから外部研修には授業期間中はなかなか行けないという専門学校としての難しさがある。自己啓発費を使って個人的に参加したり、また、夏休み中に共通のテーマで学内研修会を開いたり、東京都専修学校各種学校協会が主催する教え方やカウンセリングをテーマとする夏季研修に参加したり、その他、私学財団の研修などの案内も積極的に行っているが、やはり時間がないということで大学などとは違う難しさがある。 ただ、教員や教育の質を高めるためには専門的な研修は当然必要であり、それが職業実践専門課程の要件の一つにもなっているので、それについては、できる限り奨励して進めていきたいと思っている。
---	--

(3) 入学前について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□私も娘と同じ医療秘書科に在学したが、カリキュラムでは新たに勉強するものが増えていると感じている。保護者として専門学校に期待するのは就職であり、また取得した資格が将来すぐに役に立つところだと思っている。大学との違いは、やはり社会の中で実践的に使える部分が強みになってくると思っているので、その点を今後も引き続きしっかり指導してほしいと思う。 それから、入学前に課題などを出していただくと良いのではないと思う。本校をはじめ専門学校は早めに入学が決まることが多い。入学までの間に自分で課題を見つけられれば良いが、そういうところが中々難しいので、それを少し引き締める部分で課題のようなものがあると、少しモチベーションを高めた上で入学できるのではないかと感じた。	□本校ではAO入試で入学が早く決まる志願者に対しては課題を出しているが、それ以外については実施していないので、やはりそういうものがあつた方が良いのは確かだと思う。その中で、気持ちを高めてもらうことは、退学防止の観点から見ても、オープンキャンパスだけでなく、そういった事前指導は必要と感じた。 委員が在学された頃と現在では、本校もだいぶ変わっており、クラスの人数も随分違うと思うが、就職に対する取り組みなどは、むしろ以前より今の学生の方が熱心なところもある。また、今は大学が専門学校の教育に近づいているようなところもある。就職は専門学校の本来のテーマであることから、それに向けて、率だけではなく、良い中身の就職、2-40につながるものを高めるための色々な工夫をしていきたいと思っている。

○最後に、保坂委員長より、社会人教育とともに、専門教育、実務教育も緩むことなく進めて欲しい旨のまとめ及び本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回委員会への協力依頼が行われた。

以上